

天沼中だより

令和5年3月8日
杉並区立天沼中学校



<http://www.suginamischool.ed.jp/amanumachu/>

令和4年度 教育調査（区）及び 生活と学び調査（CS）

結果の分析と考察

12月に実施しました教育調査（区教委実施、以降「区調査」とします。）、1月に実施した生活と学び調査（CS実施、以降「CS調査」とします。）へのご協力ありがとうございました。

いただきました調査の結果を分析し、考察を加えました。分析、考察の全文は学校関係者評価委員会、学校運営協議会（CS）にて報告しました。それぞれのお立場からご意見をいただき、次年度の学校経営に生かしてまいります。以下、校内での集計結果と分析・考察を抜粋してのご報告をいたします。

1 回収率

[生徒] 今年度：90.6%（区調査）87.9%（CS調査） 昨年度：90.4%（区調査・CS調査同時実施）
[保護者] 今年度：71.4%（区調査）53.1%（CS調査） 昨年度：92.0%（区調査・CS調査同時実施）

今年度は、生徒、保護者とFormsでの回答をお願いしました。生徒の回答率は若干減少しましたが、Forms回答の影響はないと思われます。保護者の回答率は昨年度は90%以上でしたが、今年度は約71%及び約53%であり、Forms回答の影響があったと考えられます。今後回収率を上げるためには、周知と協力依頼の工夫が必要であると考えます。

2 肯定率と否定率の平均及び増減にかかる昨年度との比較について

〈肯定率平均〉

[生徒] 今年度：66.6%（区調査）73.2%（CS調査） 昨年度：60.0%（区調査・CS調査同時実施）
[保護者] 今年度：59.6%（区調査）71.2%（CS調査） 昨年度：58.0%（区調査・CS調査同時実施）

〈否定率平均〉

[生徒] 今年度：11.4%（区調査）10.3%（CS調査） 昨年度：14.9%（区調査・CS調査同時実施）
[保護者] 今年度：10.1%（区調査）8.8%（CS調査） 昨年度：10.7%（区調査・CS調査同時実施）

（1）生徒について

昨年度に比べて全項目での肯定率平均が6.6ポイント（以降ポイントをPとする）以上増加し、否定率平均が3.5P以上低下しました。区調査の「13地域の行事に参加している。(29.0%)」が、肯定率が低い状況で、昨年度よりも1.4P減少していますが、否定率は昨年度よりも1P程度改善されていることから昨年度と傾向は変化していないと考えられます。その他は、多くの項目で肯定率が高まり、全39項目のうち、33項目で肯定率が1P以上上昇しました。これは、教育活動が予定通り行えたこと、教員と生徒の関係構築が円滑であったなどの要因が考えられます。昨年度と比較して項目別の肯定率が10.0P以上増加した項目、1.0P以上減少した項目は、以下の項目でした。

肯定率が10.0P以上
増加した項目
※（%）内は肯定率

【CS調査】「1学校はいじめに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、協力して取り組んでいる。(71.6%)」「2学校は、私たちに学校の教育目標（自主・自律・共生）について、話をしたり考え方をしたりしている。(80.9%)」「3私たちは、教育目標の中の”自主・自律・共生”ということについて、日常生活で考えたり、行動したりしている。(64.4%)」「4学校は、学校の様々な問題について地域・保護者と力を合わせて取り組んでいる。(65.3%)」「9総合的な学習の時間は、私たちが将来の生き方や進路を考える上で役立っている。(76.9%)」「12私は、学校生活や友達との交流を楽しいと感じている。(91.6%)」「13学校の生活のきまりやルールは納得できる。(75.1%)」「14学校の部活動は、自分の成長や学校生活を充実させることに役立っている。(82.7%)」「15学校は、不登校の予防・効果的な支援のために、いろいろな指導や学び・考える場づくりの取り組みをしている。(52.9%)」「16職業学習、職場体験、上級学校訪問などのキャリア学習は自分の生き方や将来を考えるために役立っている。(83.1%)」「17書道・華道・茶道、和楽器（箏・三味線）、落語などの体験授業は日本の伝統文化理解に役立っている。(83.6%)」「20フレンドシップスクールをはじめ、行事などの機会の学級づくりの取り組みは、良い友だち関係をつくるのに役立っている。(80.0%)」「251～3年生が一緒に活動する異学年交流により先輩後輩達と交流し、学校生活がより幅広くなっている。(60.0%)」
【区調査】「授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。(59.7%)」

肯定率が1.0P以上減少した項目 ※ (%) 内は肯定率	【区調査】「6 学校の授業によって、分かることやできることが増えている。(79.7%)」「13 地域の行事に参加している。(29.0%)」
---------------------------------	---

(2) 保護者について

今年度は全項目の肯定率平均が1.5P以上、特にCS調査では13P以上増加し、否定率平均は0.6P以上減少しました。PTAの活動協力により学校情報が伝わりやすくなったりこと、学校公開の機会が増えたこと、生徒へ「保護者に学校生活を伝えるよう」意図的に伝えた効果、キャリア教育において、生徒と保護者が話す機会が増えたことが結果に表れたと考えられます。昨年度と比較して項目別の肯定率が10.0P以上増加した項目、1.0P以上減少した項目は、以下の項目でした。

肯定率が10.0P以上増加した項目 ※ (%) 内は肯定率	【CS調査】「1 いじめに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。(54.4%)」「2 教育目標が学校経営や日々の教育活動に生かされていると思っている。(74.3%)」「3 家庭の生活で、学校の教育目標が生かされている。(48.5%)」「4 学校は、様々な課題や問題に地域や保護者と力を合わせて取り組んでいる。(80.9%)」「7 学校には、自慢できる特色ある教育活動（ことだま、異学年交流、伝統文化教育やキャリア教育など）がある。(86.0%)」「9 総合的な学習の時間は、生徒たちが将来の生き方や進路を考える上で役立っている。(72.1%)」「10 学校は、道徳の授業を中心に生徒たちに社会のルールやマナーについて考えさせ、道徳性を養うよう指導している。(77.9%)」「11 学校は、命の大切さについて指導している。(82.4%)」「12 学校は、生徒自身の学校生活上の安全やトラブル・危険の回避などについて指導している。(72.1%)」「13 自分の子どもは、学校やクラスを楽しいと感じている。(78.7%)」「14 学校の学校生活のきまりやルールは納得できる。(86.8%)」「15 学校の部活動は、生徒の成長や生徒が学校生活を充実させることに役立っている。(74.3%)」「16 学校は、不登校の予防・効果的な支援のために、いろいろな指導や学び・考える場づくりの取り組みをしている。(44.9%)」「18 学校公開の機会は十分にある。(91.2%)」「19 学校からの連絡（メール、お知らせや学校・学年便りなど）や学校ホームページの内容や回数は適切である。(89.0%)」「20 保護者会を通して、子どももや学校の様子が把握できている。(67.6%)」「21 学校は保護者の相談によく対応している。(68.4%)」「25 学校は、生徒がボランティア活動に参加し、社会体験活動をする機会をつくり、生徒のボランティア意識の向上に努めている。(72.8%)」「26 1～3年生が一緒に活動する異学年交流により先輩後輩達と交流し、学校生活がより幅広くなっている。(56.6%)」 【区調査】「10 子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細やかに支援してくれている。(47.8%)」
肯定率が1.0P以上減少した項目 ※ (%) 内は肯定率	【区調査】「1 子どもの学校生活は全体として満足できるものである。(65.9%)」「6 学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。(49.5%)」

3 肯定率と否定率の高低にかかる昨年度との比較について

(1) 肯定率70%以上、否定率10%未満の項目数についての比較（肯定的な回答傾向が強い項目）

〈肯定率70%以上の項目数〉

[生徒] 今年度：21項目/39項目中 昨年度：10項目/39項目中

[保護者] 今年度：23項目/39項目中 昨年度：10項目/39項目中

〈否定率10%未満の項目数〉

[生徒] 今年度：22項目/39項目中 昨年度：16項目/39項目中

[保護者] 今年度：27項目/39項目中 昨年度：18項目/39項目中

昨年度と比較すると生徒、保護者とも、肯定の項目が10項目以上、否定の項目は6項目以上、増加していることから、大幅に改善傾向がみられました。昨年度80%以上の項目は生徒1項目、保護者はなかったことと比較しても大きく改善されました。コロナ禍でありながらもさまざまな教育活動を行ってきたこと、生徒にそれぞれの活動の意義を伝えてきたこと、PTAの協力が多くいたただけたことで保護者や地域の方が学校へ直接来てくださる活動が多くなり、学校の様子を直接伝える機会が増え、学校教育活動への理解を得られたことなどが要因であると考えています。

(2) 肯定率50%未満、否定率20%以上の項目数についての比較（否定的な回答傾向が強い項目）

〈肯定率50%未満の項目数〉

[生徒] 今年度：2項目/39項目中 昨年度：8項目/39項目中

[保護者] 今年度：6項目/39項目中 昨年度：10項目/39項目中

〈否定率20%以上の項目数〉

[生徒] 今年度：4項目/39項目中 昨年度：6項目/39項目中

[保護者] 今年度：1項目/39項目中 昨年度：1項目/39項目中

昨年度と比較すると全体的に減少し、改善傾向でした。生徒の肯定率50%未満の2項目とも、昨年度と同じ項目で、肯定率も昨年度とほぼ同じでした。保護者の肯定率50%未満の6項目とも、昨年度と同じ項目で、うち5項目は、昨年度よりも肯定率が上昇しました。生徒の否定率20.0%以上の4項目のうち3項目は同じ項目、1項目は今年度からの項目でした。昨年度と同じ項目のうち2項目は否定率が減少しています。保護者の否定率20.0%以上の1項目も昨年度と同じ項目で、否定率は減少しています。全体的に該当している項目数が減少していること、該当項目の肯定率が昨年度よりも上昇し、否定率が減少している傾向がみられるので、全体的には改善傾向にあります。なお、保護者の肯定率50.0%未満で昨年度よりも肯定率が減少した区調査「6適正な評価」については、学習指導要領全面実施2年目を迎えて、評価評定の考え方方が従前と変わっていることを今後、丁寧に周知説明させていただくことが必要と考えました。また、保護者の区調査「1学校生活の満足度」については肯定率が5.5P減少しています。生徒の同項目は肯定率80%以上かつ昨年度よりも5.5P増加していることから、生徒と保護者の意識に差が見られます。生徒は肯定的にとらえていることから、保護者の方が学校や生徒への要望や期待が高いことの表れと考えております。今後改善が図れるようにしてまいります。

3 自由記述について

生徒からは70件のコメントがありました。そのうち、肯定的意見（相談できる先生が多い、たのしい、ことだま活動がよい、など）が27件、「特になし」のような記述が19件、施設関連（トイレ・照明について）が4件、肯定的改善（ボランティア活動等のさらなる充実、教育目標をもっと意識したいなど）が4件、その他要望等（授業や定期考査、一部教室の開放、教員間の連携など）が16件でした。

保護者からは全24件のコメントがありました。そのうち、本校への期待や応援（子ども同士のトラブルの冷静な対応、コロナ禍でも工夫した教育活動の継続、生徒が見守られていてのびのびと通っているなど）が18件、要望等（人権的な配慮、情報公開など）が3件、肯定的改善意見等が2件、その他1件でした。

無記名のアンケート調査での自由記述で、肯定的意見や応援の記述を多くいただきましたことは、私たちにとって大きな励みをいただきました。ありがとうございました。また、要望等も寄せられていることも受けとめ、さらなる教育活動の充実を目指してまいります。

4 まとめ

コロナ対応の状況が徐々に緩和され日常の教育活動が戻りつつある中で、1人1台タブレットを活用した教育、個別最適な学び、学びに向かう力の育成、教職員の働き方改革など、コロナ禍を契機に新たな考え方方が導入され教育が大きく転換期を迎えていたと感じています。このような状況下においても、やはり教育の根幹は人と人との直接関わり合う中で、直接の実体験から得られる学びを基盤としていくことが大切であると考えています。この考え方のもと、本校は可能な限り行事や体験的な教育活動を行う方針で教育活動を行ってまいりました。例えば、ことだま百選では暗唱だけでなく、保護者、学校支援本部、地域の専門家の方々に協力をいただき朗読の活動をはじめるなど、人と人との直接関わる教育活動を意図的に行ってまいりました。これらの教育活動は外部関係者や地域のボランティアの方々、そしてPTAをはじめとした保護者の皆様の協力なくしては活動できないものであり、このような協力をいただけたことで教育活動が充実した結果、肯定率が昨年度よりも増加した項目が多くなるとともに、肯定率が70%以上の項目も多くありました。

多くの項目で肯定的な回答をいただけたことに感謝申し上げますとともに、来年度も生徒たちが自主・自律・共生の目標を達成し、中学校を卒業できよう教職員一同努めてまいります。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

天中CSコーナー

アンケート実施へのご協力に感謝×感謝
可能性と課題をリアルに見つめて行きましょう！！

天沼中学校学校運営協議会(略称CS)会長 三石初雄

今年度も“天中の生活と学び”“アンケート調査への多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。年度末になってしましましたが、ご卒業される生徒・保護者の方々がいらっしゃいますので、この場をお借りして、CSからのお礼と部分的ではありますがご報告をさせていただきます。

今年度の調査結果から、この新型コロナ蔓延下ではありました、生徒の生活と学びへの肯定感と学校教育活動の改善の兆しを示しているのではないかと考えています。もちろん、まだまだ部分も散見されます。数値での回答状況は本紙に紹介されていますので、ここでは自由記述からご紹介します。たとえば、「今の状態でいい／満足／自主自律共生がいい。」（1年生）「サッカー等の部活が楽しい／“ことだま”など天中にしか無い取り組みがあり、言語に対する認識が深まった／相談ができる先生がいる」（2年生）、「タブレットを多く使っていい／“ことだま”学習がいい／球技大会がいい」（3年生）等々の声（省略して記載）が多くなっていました。

また、保護者の方々からは、「天中レスキュー隊活動は自分の地域を守るために活発な活動で期待している」（1年）、「子ども同士のトラブルについて、先生方が間に入って冷静な対応をしてくれた」（2年）、「清潔な校内と草花が咲き乱れる学校環境は、生徒の心のオアシスになっている。づづけて欲しい」（3年）等の声が寄せられています。

学校への期待・要望も記述されていました。トイレの修繕について1年生から指摘されていましたが、昨年よりはずっと少なく、少し改善された事情が分かります。2年生からは「校庭への照明が欲しい」とか、「クラスとしての交流が無い」「多（他）学年との交流活動がもう少しあってもいい」「文化祭をやろう」（2年生）、3年生からは不登校の予防や効果的な支援を続ける事への期待と「不登校＝悪いという認識が一般化してしまっている問題にどう対処していくか」という問題指摘もありました。「禁止なものが多すぎる」という声もありますが、これらは生徒らの“まっとうでやる気と積極的な気風”的現れと理解していいように思われます。

保護者の方々からは、「保護者同士の交流の場が少なく思う」「公開日の保護者参加の数が少ない」という指摘もあります。それも今後の改善への要望の表明とかと思われます。また学校への辛辣なご批判もありますが、具体的にどういうことか、その想い・受け止め・考えはどういうことかについて交流し情報共有を濃く豊かにしながら、充実した中学生時代を創るために素材・チャンスとしていく取り組みへの期待だと受け取っていきたい（そうあってほしい）と思います。さらに部活動の在り方（地域移行）のこと、ICT活用の具体的なこと、“前に出ることが苦手な生徒への配慮”をどうしたらいいかを問う記述も見られました。「働き方改革とはいえ、もう少し生徒ファーストでもいい」のではないかというご意見も見られます。これらご意見の主意を想像力を働かせ積極的にくみ取っていきたいと考えています。

そのような自由記述と数量的データを拝見して、CSでは、不登校者や生活指導等への個別的な対応だけでなく、中学校ならではの学校生活を学校行事や伝統文化の教育等の“特色ある教育活動”への教員の取り組みと、「年度末反省」等の校内分掌の的確な教育活動が一定機能していると捉えています。「意見箱」「おしゃべりウィーク」の対象を生徒だけでなく保護者にも広げたり、保護者会や教育課程説明会、授業公開等を多く開催し、生徒と保護者との「距離」も縮まってきているかと思われます。これらは先生方の教育活動のたまものだと思われます。

自由記述で、ある保護者は「ワクチンもなかった3年前、どれだけの決意で先生方が教壇に立ちつづけてくれていたのか」を再認識すべきであるとも書かれています。今回の諸調査結果やCS及び学校関係者評価委員会内での意見交換では、その教師と学校の教育活動の取り組みが全体としては“功を奏している”と判断しています。なお、「校舎は古いかもしれないが、周りには四季を通じて草花が咲き乱れている。こうした環境は、途切れることなく隣のさざんか教室ともつながっており、生徒の心のオアシスとなっている」と保護者自由記述に書かれています。こうに管理職・教育職だけでなく主事さんや職員等の総合力であることも見逃せないことだと思います。

ただ、課題としては、「誰もが当事者として教育にかかわる環境づくり」「自主・自律・共生」という学校教育目標の大切さに立ち戻って考えることの必要性もあるとも考えています。例えば、学校教育活動とその効果理解での「食い違い」については、そのご意見の強弱や情報交流不足等々によるもの、解消するまでには至っていないとも捉えています。数少ない自由記述での数少ない記述ではあれ、それらを話し合いの機会や話し合うチャンスに変えていく機会を探る、今まで行っている活動の機会を見直し工夫することが必要なかもしれません。

これまでのCSへのご理解・ご協力をありがとうございました。今後とも、ご卒業される方々と一緒に、天中在校生、卒業生、地域の若者を見守っていきたいと思います。皆様方のご健勝を願っています。

教育調査評価結果

令和4年12月（教育調査・区）及び
令和5年1月（生活と学び調査・CS）実施

杉並区立天沼中学校

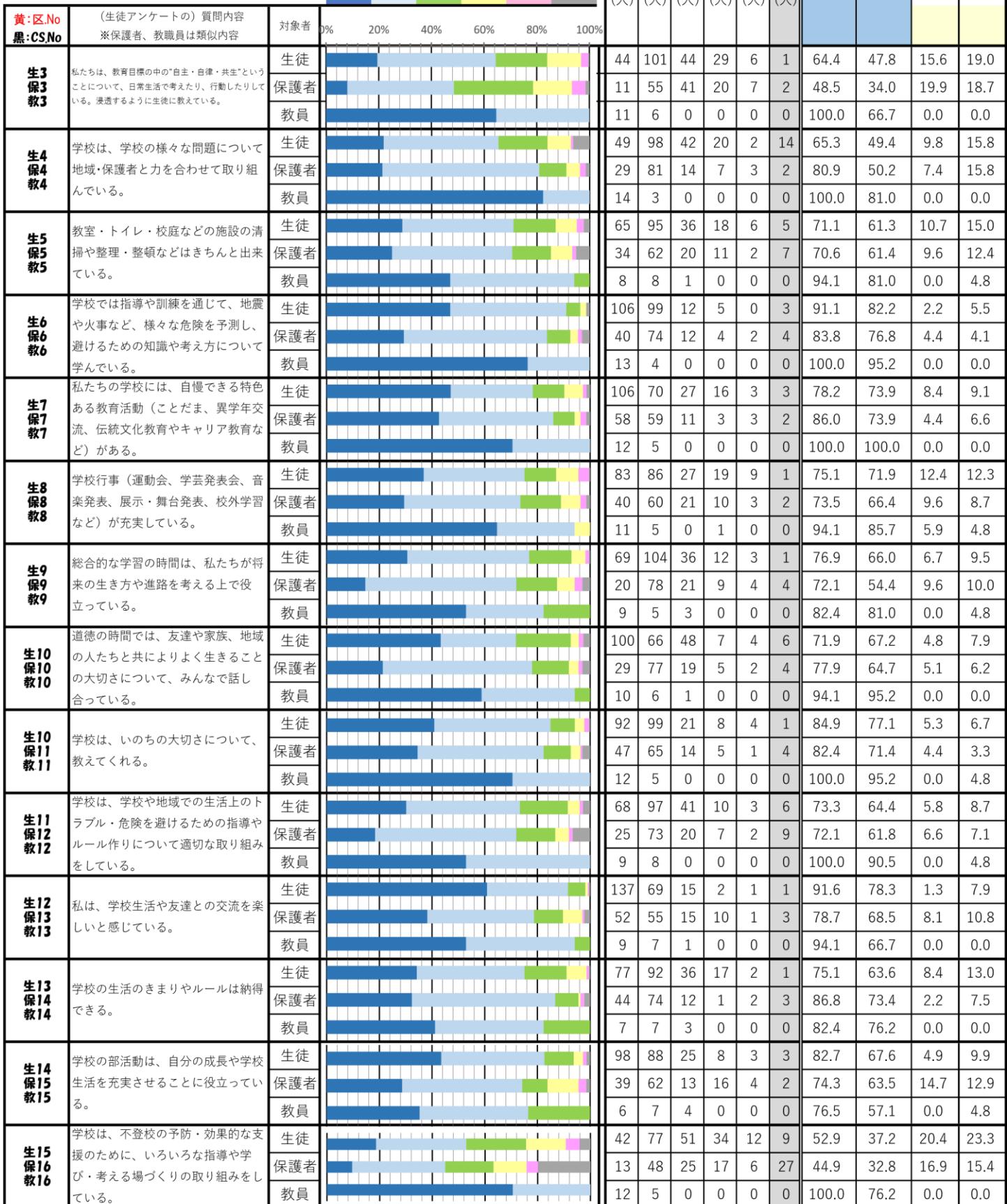
黄:区分 黒:CSNo	(生徒アンケートの) 質問内容 ※保護者、教職員は類似内容	対象者	A B C D E 無						(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	R4の肯定率 A+B	R3の肯定率 A+B	R4の否定率 D+E	R3の否定率 D+E
			そう思う そう思う	やや ない	どちらでも ない	あまり 思わない	思わない わからない	無回答 わからない										
生1 保1	学校は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。（子どもの学校生活は全体として満足できるものである。）	生徒	122	67	27	8	1	6	81.8	76.3	3.9	6.3						
		保護者	40	80	46	11	4	1	65.9	71.4	8.2	10.0						
生6	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	生徒	108	76	28	9	3	7	79.7	81.0	5.2	6.3						
生9	学校は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	生徒	84	73	52	10	5	7	68.0	68.8	6.5	9.1						
生7	学校は、授業で自分ができたことをほめてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	生徒	82	79	44	12	5	9	69.7	60.9	7.4	9.1						
生3 保5 教6	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように個別に教えてくれている。	生徒	50	63	68	28	11	11	48.9	35.2	16.9	26.1						
		保護者	38	72	51	11	6	4	60.4	57.7	9.3	10.0						
		教員	7	9	2	0	0	0	88.9	90.5	0.0	4.8						
生2 教5	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	生徒	71	67	56	18	9	10	59.7	41.1	11.7	22.9						
		教員	4	11	3	0	0	0	83.3	52.4	0.0	4.8						
生8 保7 教9	学校は、授業において電子黒板やデジタル教科書等を活用している。	生徒	172	35	13	1	3	7	89.6	85.8	1.7	5.5						
		保護者	61	72	36	7	1	5	73.1	67.2	4.4	10.0						
		教員	14	4	0	0	0	0	100.0	95.2	0.0	4.8						
生11 保9	学校は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。 学校での生活を通して…健康な生活を送る力が育まれている。	生徒	105	76	38	6	1	5	78.4	74.3	3.0	7.1						
		保護者	55	82	36	5	2	2	75.3	69.7	3.8	7.9						
生12 ※新規	学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ	生徒	160	0	0	0	71	0	69.3		30.7							
生13	地域の行事に参加している。	生徒	38	29	51	28	60	25	29.0	30.4	38.1	39.5						
生5 教8	学校は、授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	生徒	97	76	40	10	1	7	74.9	69.6	4.8	9.1						
		教員	12	5	1	0	0	0	94.4	81.0	0.0	0.0						
生14 保13 教14	学校は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	生徒	76	59	54	17	6	19	58.4	58.5	10.0	16.2						
		保護者	45	85	37	9	3	1	72.2	63.1	6.7	9.1						
		教員	10	6	2	0	0	0	88.9	81.0	0.0	0.0						
生1 保1 教1	学校はいじめに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、協力して取り組んでいる。	生徒	75	86	41	12	5	6	71.6	56.9	7.6	15.8						
		保護者	25	49	33	8	2	19	54.4	41.9	7.4	12.0						
		教員	12	5	0	0	0	0	100.0	85.7	0.0	0.0						
保12 教13	特別支援学級や自校外の障がいのある同じ年くらいの子どもと交流する機会がある。	保護者	9	22	48	23	22	56	17.2	15.8	25.0	32.0						
		教員	12	2	4	0	0	0	77.8	90.5	0.0	0.0						
生2 保2 教2	教育目標が学校経営や日々の教育活動に生かされていると思っている。	生徒	90	92	27	13	1	2	80.9	53.4	6.2	17.8						
		保護者	22	79	21	5	3	6	74.3	46.9	5.9	10.8						
		教員	10	7	0	0	0	0	100.0	66.7	0.0	0.0						

※斜線は新規等でデータがないもの

教育調査評価結果

令和4年12月（教育調査・区） 及び
令和5年1月（生活と学び調査・CS）実施

杉並区立天沼中学校



教育調査評価結果

令和4年12月（教育調査・区） 及び
令和5年1月（生活と学び調査・CS）実施

杉並区立天沼中学校

黄:区No 黒:CS.No	(生徒アンケートの) 質問内容 ※保護者、教職員は類似内容	対象者	A B C D E 無						(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	R4の肯定率 A+B		R3の肯定率 A+B		R4の否定率 D+E		R3の否定率 D+E	
			そう思う 0%	やや そう思う 20%	どちらでも ない 40%	あまり 思わない 60%	思わない 80%	無回答 100%														
生16	職業学習、職場体験、上級学校訪問などのキャリア学習は自分の生き方や将来を考えるのに役立っている。	生徒							101	86	29	3	2	4	83.1	57.3	2.2	8.3				
生17	書道・華道・茶道、和楽器（太鼓・箏・三味線）、落語などの体験授業は日本の伝統文化理解に役立っている。	生徒							101	87	22	8	4	3	83.6	72.7	5.3	6.7				
生18 保19 教19	私は、学校からの配布物（学校だよりやお知らせ等）はきちんと保護者に渡している。	生徒							84	70	24	29	17	1	68.4	61.3	20.4	16.6				
		保護者							61	60	6	3	3	3	89.0	75.9	4.4	8.3				
		教員							12	3	1	1	0	0	88.2	76.2	5.9	0.0				
生19 保20 教20	私は、保護者に学校の様子をよく話している。（保護者会を通して、子どもや学校の様子が把握できている。）	生徒							91	65	25	22	19	3	69.3	63.6	18.2	15.0				
		保護者							22	70	18	15	2	9	67.6	53.5	12.5	15.8				
		教員							7	7	2	1	0	0	82.4	57.1	5.9	4.8				
生20	行事などの機会にコミュニケーションゲーム等を取り入れた学級づくりをしている。これは良い友だち関係をつくるのに役立っている。	生徒							94	86	24	13	3	5	80.0	63.6	7.1	10.7				
生4 保22 教7	学校は、興味関心を引き出し、よく分かるように工夫した教科指導を行なっている。	生徒							61	61	63	24	11	11	52.8	50.2	15.2	16.6				
		保護者							13	59	38	12	4	10	52.9	41.9	11.8	12.4				
		教員							7	9	2	0	0	0	88.9	57.1	0.0	4.8				
生21 保10 教22	友だちや先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に、相談できる大人がいる。（その解決を、きめ細やかに支援・対応してくれている。）	生徒							73	74	40	21	16	1	65.3	57.7	16.4	14.6				
		保護者							29	58	60	14	10	11	47.8	34.0	13.2	14.5				
		教員							13	2	2	0	0	0	88.2	76.2	0.0	0.0				
生22 保23 教23	学校は、私たちの学習面の良いところを認めてくれ、学習意欲が湧くような評価・評定をしている。	生徒							47	93	50	21	8	6	62.2	54.9	12.9	17.4				
		保護者							21	47	38	18	7	5	50.0	48.5	18.4	17.0				
		教員							10	6	1	0	0	0	94.1	81.0	0.0	0.0				
生23	ことだま百選や英語のKOTODAMAなどの言葉の教育は言語への意欲を高めるのに役立っている。	生徒							68	86	40	19	10	2	68.4	59.3	12.9	16.2				
生24 保25 教25	学校は、私たちがボランティア活動に参加し、社会体験活動をする機会をつくってくれる。これらによって自分のボランティア意識が高まっている。	生徒							46	79	60	24	12	4	55.6	53.8	16.0	15.0				
		保護者							38	61	17	12	3	5	72.8	70.5	11.0	6.2				
		教員							11	5	1	0	0	0	94.1	81.0	0.0	0.0				
生25 保26 教26	多くの場面で1～3年生が一緒に活動する異学年交流により先輩後輩達と交流し、学校生活がより幅広くなっている。	生徒							48	87	46	25	18	1	60.0	41.1	19.1	30.0				
		保護者							18	59	34	15	4	6	56.6	44.8	14.0	12.4				
		教員							7	5	4	1	0	0	70.6	33.3	5.9	9.5				
保2	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	保護者							25	86	53	9	6	3	61.0	61.8	8.2	8.3				
保3	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	保護者							42	67	55	7	6	5	59.9	55.2	7.1	9.1				
保4	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	保護者							53	82	27	13	5	2	74.2	71.0	9.9	5.4				

教育調査評価結果

令和4年12月（教育調査・区） 及び

令和5年1月（生活と学び調査・CS）実施

杉並区立天沼中学校

黄:区No 黒:CSNo	(生徒アンケートの) 質問内容 ※保護者、教職員は類似内容	対象者	A	B	C	D	E	無	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	R4の肯定率A+B	R3の肯定率A+B	R4の否定率D+E	R3の否定率D+E
			そう思う そう思う	やや ない	どちらでも ない	あまり 思わない	思わない わからない	わからない	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
保6	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	保護者		31	59	56	21	8	7	49.5	51.0	15.9	15.8					
保8	子どもは、学校での生活を通して、他者とともによりよく生きるための力が育まれている。	保護者		54	87	29	8	2	2	77.5	70.5	5.5	4.6					
保11	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障がい理解を深める情報を提供している。	保護者		16	58	58	18	7	25	40.7	39.8	13.7	16.2					
保17 教17	保護者会の開催は十分に行われている。	保護者		56	44	27	5	1	3	73.5	66.0	4.4	6.2					
		教員		12	3	2	0	0	0	88.2	61.9	0.0	0.0					
保18 教18	学校公開の機会は十分にある。	保護者		82	42	8	1	1	2	91.2	75.5	1.5	6.2					
		教員		15	1	1	0	0	0	94.1	85.7	0.0	0.0					
保21 教21	学校は保護者の相談によく対応している。	保護者		34	59	23	9	3	8	68.4	51.9	8.8	10.4					
		教員		12	5	0	0	0	0	100.0	85.7	0.0	0.0					
保24 教24	学校の教育計画（教育課程）について適切な説明がなされている。	保護者		36	58	28	5	4	5	69.1	62.7	6.6	7.9					
		教員		8	8	1	0	0	0	94.1	76.2	0.0	0.0					
教1	児童・生徒や保護者から障害等への合理的な配慮が求められた場合、校内委員会で検討し、実施に努めている。	教員		12	5	0	1	0	0	94.4	95.2	5.6	0.0					
教2	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評議会で協議している。	教員		6	8	3	0	0	1	77.8	61.9	0.0	0.0					
教3	カリキュラム・マネジメントの視点に立って、教科間のつながりを踏まえた教育活動に取り組むとともに、計画的な評価・改善を行っている。	教員		5	12	1	0	0	0	94.4	71.4	0.0	9.5					
教4	各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画を作成している。	教員		6	11	1	0	0	0	94.4	61.9	0.0	9.5					
教10	学習指導要領に基づく各教科等の目標や内容の系統性を理解し、学年や小・中学校の接続を踏まえた授業を行っている。	教員		8	7	3	0	0	0	83.3	85.7	0.0	14.3					
教12	特別な支援が必要な児童・生徒に対して、校内委員会で検討し、個別の教育支援計画を作成している。	教員		14	1	3	0	0	0	83.3	76.2	0.0	19.0					
教11	連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。	教員		5	7	5	1	0	0	66.7	52.4	5.6	19.0					